

「はい、永田建設でございます」

「私、横田と申します。雑誌の求人を見てお電話をさせていただいたのですが、人事担当の中村さんはいらっしゃいますか？」

「中村はただ今席を外しております。夕方四時頃には戻る予定ですが」

「そうですね。では、四時頃に改めてお電話いたします。失礼いたします」

四時になると、横田は再び永田建設に電話を入れた。

「はい、永田建設でございます」

「私、本日午前中にお電話をいたしました横田と申します。人事担当の中村さんはお戻りでしょうか？」

「はい、少々お待ちください」

保留のメロディがしばらく流れ、

「お待ちいたしました。中村です」

「私、横田と申します。雑誌の求人を見てお電話させていただいたのですが、まだ募集はしていらっしゃいますか？」

「はい、まだ募集しております。一般事務と営業、どちらをご希望ですか？」

「一般事務を希望しております」

「そうですね。では、最初に書類選考を行いますので、七月七日までに履歴書をお送りください。書類選考で合格された場合には、後日こちらからご連絡いたします。不合格の場合には、履歴書はこちらで責任をもって処分させていただきますのでご了承ください」

「わかりました。それではすぐにお送りしますので、よろしくお願いいたします」  
数日後、横田の家に永田建設からの連絡が入った。

「はい、横田です」

「こちら、永田建設人事部の中村と申しますが、正実さんをお願いします」

「はい、私ですが・・・」

「先日、横田さんの方から履歴書をお送りいただき、厳重な書類選考を行った結果、合格となりました。つきましては、後日面接試験を行いたいと思います。当社の面接日程としては、来週二十二日と二十三日の二日間の予定です。その両日のいずれかであれば、横田さんのご希望の日で構いませんが」

「そうですね。それでは二十二日にお願ひできますか？」

「わかりました。では二十二日に面接の予定を入れておきますので、当日は午後二時までに二階の会議室の方においでください。その日、面接試験を受ける人は横田さんの他にも何人かいらっしゃいますので、面接の順番を待つ間、一般常識と作文の試験を行います」

「はい、わかりました。それから御社の場所なのですが、駅から歩いて五分とお聞きしているのですが、詳しい道順が分からないので教えていただきたいのですが」

横田は、駅から会社までの道順を聞き、手帳にメモを取った。